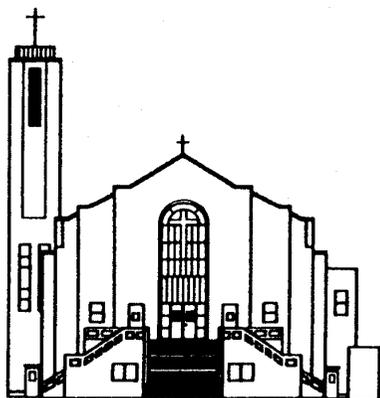


十月号

田園



(No.710. 2023.10.1)

カトリック田園調布教会報

☎03(3721)7271

〒145-0071 東京都大田区田園調布3-43-1

燃える心、踏み出す足

「世界宣教月間」と「世界宣教の日(十月二十二日)」にあたって

助任司祭 アントニオ金東炫神父

田園調布教会にとって特別な意味のある十月が始まりました。

十月はあらゆるものが豊かになる時と云えますが、特に母マリアと共にイエス・キリストの生涯、人類救いの歴史を黙想するロザリオの月とすべての被造物を兄弟として受け入れて福音の普遍的性格をこの世に示した田園調布教会の守護の聖人、アッシジの聖フランシスコの天上での誕生を祝う、恵みと喜びがあふれる時であることは間違いないと思います。そして全世界の教会は、この月を神の国の福音を広める世界宣教月間として過ごします。

私たちはこの月間を通して神の国を広めるキリスト者固有の使命を再確認します。

キリスト教において宣教とは、単に言葉と教義を言葉で伝えることだけでなく、「隣人を自分のように愛する」隣人愛の実践によって神の国をこの世に示すことです。

二〇二三年「世界宣教月間」「世界宣教の日」のテーマは「燃える心、踏み出す足」です。このテーマについて教皇フランシスコは、ルカ福音 24:48 のエマオに向かう二人の弟子たちの物語から、混乱と失意のうちにいる二人の弟子が、復活されたイエス・キリストと共に旅する間に起こった三つの変化を黙想するよう勧めています。

弟子たちの宣教の旅の輪郭をあらわすこの三つの姿「イエスが聖書を説明してくださったことで燃える心、イエスだと気づくよう開かれた目、そしてきわめつけの踏み出す

「す足」を黙想することによって「現代世界においての福音宣教の熱意を新たに」することができると述べました。

・「聖書を説明してくださったとき」の燃える心は宣教活動において、神のことばは心を照らし変えてくださるという信仰を、

・パンが裂かれると、目が「開け、イエスだと分かった」ということは聖体におられるイエスは、宣教活動の頂点であり源泉であることを、

・復活されたキリストを語る喜びを胸に、踏み出す足は、いつも外へと出て行く教会の永遠の若さをあらわします。

このように、復活されたイエス・キリストとの出会いに照らされて燃える心で、開いた目で、踏み出す足で、主キリストの生涯とその愛を喜びにあふれて物語ることは神が人類にお与えになった平和と救いの道に、すべての人を招く行為であり、まことの福音宣教と言えます。

また、宣教活動は異文化との交流でもあります。他の文化や宗教を尊重し、共感し合うことで神がお示しになった平和への道が築かれます。

あらゆる面で豊かに満たされるこの十月、私たちの母マリアに導かれ、アッシジの聖フランシスコのとりつぎのうちに、ひとり一人の祈りを通して神の国がこの世界にあらわれるように共に歩んで行きましょう。

母マリア、私たちと共に祈ってください。
兄弟フランシスコ、私たちのために祈ってください。



〈信徒連絡会〉 七月九日議事録

◎竹内主任神父様のお祈りとお話

〔報告・今後の予定〕

- ◎七月二日（日） 教会委員会
- ◎七月九日（日） 信徒連絡会
- ◎八月六日（日） 平和旬間 ミサの意向
「平和を祈る」

- ◎八月十五日（火） 聖母の被昇天
- ◎九月三日（日） 教会委員会
- ◎九月十日（日） 信徒連絡会
- ◎九月十七日（日） 敬老の集い
- ◎十月一日（日） 教会委員会
- ◎十月三日（木） 帰天祭（トランジトウス）
- ◎十月八日（日） フランシスコ祭 信徒連絡会

〔各会報告など〕

◎典礼委員会

- ・ミサにて「いつくしみの賛歌」「栄光の賛歌」「平和の賛歌」「感謝の賛歌」を十月のフランシスコ祭をめぐりに復活させることを聖歌隊と検討し準備しておりましたが、昨年の待降節からの式次第の変更に伴って、歌も変更されており、実施が遅れる見通しです。
- ・六月十一日の初聖体では九人（後日もうお一人。計十名）が参加されました。
- ・司祭に夏用のカズラを使用していただいています。



◎財務財政委員

- ・六月二十五日（日） 上期決算
- ・各活動会におかれましては、上期決算のご協力を頂きまして誠にありがとうございます。今回初めて、印刷室を決算報告場所として活用させて頂きました。下期についても同様に活用するかもしれませんので、その際は改めてご協力をお願いいたします。
- ・各活動会内で使用する予算については、仮払金の中から使用して頂くことを前提でおこなっています。予算内でのご利用をお願いいたします。

◎福音宣教委員会

- ・フランシスコ祭にちなんだ絵画・写真展の再開を検討しています。

◎福祉委員会

- ・大震災復興支援として福島やさい畑の支援のための販売を再開したいと思えます。現在毎週東京・神奈川・埼玉方面にいらしているようですが、東京は偶数

月の第4週の日曜日に実施しているとのことです。できれば八月第4週、または十月の第4週からになりますので実施時期は検討したいと思います。

◎バザー委員会

- ・六月二十五日 第二回打ち合わせを実施。打合わせでの意見など
- ・二〇二三年バザーは開催したい
- ・混雑、コロナ感染を避ける工夫をする
- ・出店数をバザー委員会で規定する、ほか
- ・七月の教会委員会で内容を確認する
- ・次回バザー委員会 七月二十三日（日）十時～ 信徒会館二〇八
- ・出店数の検討
- ・開催日数 1日または2日
- ・開催時間帯を検討、など

◎音響部会

- ・大聖堂の音響に関して、
- ①最新の法令に対応するために一部機器の入替え

②出力パワーアップとデジタル化のため、スピーカー、アンプ、マイクシステムの一部更新など、順次予算化させながら対応を進めることを検討しています。FM放送もご利用ください。

〔検討事項、経過報告など〕

◎本年度のバザーについて

本年度はバザーを行います。日時は、十一月二六日(日)王であるキリストの祭日に行う予定とします。

バザーの目的としては、「私たちの教会は私たちの手で」というようなことを検討しています。

今年にはコロナ禍あけということもあり、

- ・ 飲食と食品全般の扱いを見送る。
- ・ 出店にグループ制を取り入れる(状況によつては前の週と2週にわたる分散開催も視野にいられています)
- ・ 九月には出店募集をする予定です(九月

の信徒連絡会で詳細を説明します)

- ・ 献品・衣料については、従来のような回収方法は行わない(準備時の感染を防止するため)

- ・ 感染対策に引き続き留意し、売場自身含め密にならないよう。

ことなどを検討しています。

物販ではなく例えば「子供と遊ぶ」といった出店は可能か?と質問があり、バザー委員会に参加して検討議題として出してほしい旨の回答がありました。

◎窓ふき・大掃除

・ 六月十八日(日)に皆さまとともに行いました。ご協力いただいた方々に感謝申し上げます。信徒会館の窓などきれいになりました。

◎敬老の集い(九月十七日)

- ・ ミサは十一時、ミサ後ホールにて歓談の場を設定するよう準備しています。
- ・ 対象は七十七歳以上の方々ときさせていただきます。お楽しみにしてください。

◎空調について

- ・ 現在、大聖堂と信徒会館の空調が一部故障しています。機器の更新が必要で、早くも年明けになる見込みです。多額の費用が掛かるため、特別献金を含め導入方法を検討中です。

◎一粒会より

- ・ 六月に送金を実施しました。

次回の信徒連絡会は九月十日(日)十時十五分、大聖堂にて(八月はお休みです)



〈信徒連絡会〉 九月十日議事録

◎ 竹内主任神父様のお祈りとお話

〔報告・今後の予定〕

◎ 九月十日（日） 信徒連絡会

◎ 九月十七日（日） 敬老の集い

◎ 十月一日（日） 教会委員会

◎ 十月三日（木） 帰天祭（トランジトウ

ス）

◎ 十月八日（日） フランシスコ祭 信徒

連絡会

〔各会報告など〕

◎ 典礼委員会

・ 新しいミサの式次第に基づく「いつくし
みの賛歌」「栄光の賛歌」「平和の賛歌」
「感謝の賛歌」を十月のフランシスコ祭
から実施します。前回報告では「実施が
難しい」と報告しましたが、その後、聖
歌隊・オルガン部会の皆様との検討の結

果、実施が可能となりました。土曜日夜
七時のミサと日曜日十一時のミサで先
行実施し、日曜日七時半および九時のミ
サについては追って検討します。

・ 右記、新しいミサの式次第に基づく四つ
の賛歌の実施のため、楽譜のパンフレッ
ト（十二ページ程度）を五百部程度作成
し、大聖堂およびクララ聖堂の全席に常
備します。

◎ 財務財政委員

・ コロナ禍はやや落ち着いてきたものの
月定献金はじめ献金がコロナ禍前に戻
らない中で、費用は以前並みになりつつ
あり、教会の運営に支障がでる可能性が
高くなっております。皆さまのご理解、
ご協力をよろしくお願いいたします。

◎ 福音宣教委員会

・ フランシスコ祭の作品展・皆様からお
寄せいただいた絵画・俳句および写真作
品等の展示を行います。
展示… 十月一日（日）から十三日（金）

まで、信徒会館にて。

作品募集… 九月十七日、二十四日（日）
九時から十一時の間、信徒会館二階にて。
この時間に来られない方は受付に預け
ることも可能。

水彩画と俳句の制作コーナー… 九月三
日（日）九時ミサ後に、画材・絵具、筆
記用具などをご用意して実施し、盛況で
した。

作品返却… 十月十五日、二十二日（日）

◎ 福祉委員会

・ 大震災復興支援として、福島やさい畑の
支援のための販売を再開します。東京は
偶数月の第四週の日曜日に実施してい
るとのことですので十月二十九日から
の実施といたします。

・ 九月一日〜十月四日まで「すべてのいの
ちを守るための月間」に当たりますので
「ここのとりのゆりかご」支援の募金活
動を九月二十四日（予備日十月一日）に
実施いたします。皆様のご協力お願いい
たします。

◎バザー委員会

- ・七月二十三日 第三回打ち合わせ実施
- ・八月六日 売り場面積確認会実施
- ・八月二十七日 第四回打ち合わせ実施
- ・打ち合わせ結果

― 出店申込み用紙の作成と内容確認、九月三日から配布、五十枚

― バザー再開のチラシの作成と内容確認、九月三日から配布、五百枚

― 九月三日から二週間、ミサ後にマイクでお知らせ予定（高瀬委員長）

― 出店説明会 十月二十九日（日）十二時三十分～十三時三十分 信徒会館三〇一、三〇二

・ 第五回バザー委員会 九月十日（日）十一時～十二時 信徒会館二〇八

― バザー申込状況の確認

― 出店説明会のドラフト確認

― 今後の準備作業内容の確認

◎環境部会

- ・ 草刈りおよび消毒作業

八月十四日、十六日、十七日の三日間で、

業者に依頼し、教会内の草刈りおよび中庭の消毒を実施しました。その際、中庭の樹木について以下の処置を行いました。

- ①カラシダネの木が枯れてしまったので伐採しました。
- ②オリーブの木の枝が枯れてきていたしたので、特に危険と思われる高い部分の枝を切りました。

- ・ 信徒会館横の花壇の整備

安全性、手入れのしやすさを考慮して低木を植えることを中心に検討、来年度の予算として申請の上、承認いただければ実施いたします。

◎教会学校・ボーイスカウト・ガールスカウト

各会のサマーキャンプなど無事行うことができました。皆さまのお祈りに感謝いたします。

◎本年度のバザーについて

信徒各自による出店方式。出店デスクなどの整備、受付はバザー委員会中心に行います。飲食及び焼き菓子などの食品は一切見合わせとします。バザーの新しい形をめざします。

◎敬老の集い（九月十七日）

ミサは十一時、該当者五二六名（七十七歳以降）。案内はがきを郵送し、一部は手渡しをしました。楽しい一日となるように準備しています。

◎各会活動再開について

原則、事前申請・承認をベースとし、教会にふさわしい活動のみ承認します。部屋予約などは承認後に可能とします。

次回の信徒連絡会は十月八日（日）十時～ 大聖堂にて

〔検討事項、経過報告など〕

2023年教会学校サマーキャンプ

八月二十日（日）～二十二日（火）に四年ぶりの教会学校サマーキャンプが、あずまや高原「山の家」で開催されました。

今年の五月から政府のコロナ感染症の取扱いが五類になる事を想定して、今年のサマーキャンプが実施できるか担当司祭、サポーター、リーダーと協議し、今年は二泊三日（通年は三泊四日）で実施する方向で準備を進めることにしました。



何しろ四年ぶりのため、リーダー、サポーターも何をどうすれば良いかを忘れてしまい、また「山の家」の環境整備も心配でした。

「山の家」管理グループの方々、保護者の方々に事前の掃除、草刈りなどの協力を得て、何とか実施に漕ぎ着けることができました。

参加対象は三年生～六年生の子供たちですが、コロナ禍で生徒の入学が減ったこともあり、実際に参加した子供は七名でしたが、それでもリーダーは事前の準備に一生懸命取り組み、リーダーによる手厚いサポートにより、子供とリーダーがとても深い関係を持つことが出来たのは、大変大きな成果だったと思います。

これにより教会学校が小学生だけのための活動ではなく、それを支えるリーダーの成長にも大きな役割を果たしていることが実感できました。



【野外ミサの様子】

四年ぶりで、参加した子供たち全員が初めて
のサマーキャンプであり、特に六年生は最後のサマー
キャンプであつたため、「最初で最後なのはとても残念！」、他の参加した子供達からは「とても楽しかった、来年もぜひ行きたい、リーダーになりたい・・・」などの声が多数聞かれ、長年サマーキャンプに携わっている私にとつても、今までに無い充実したサマーキャンプだったと感じています。



【皆で料理作り 餃子が沢山！】

【オリエンテーリング】



これからもずっと「山の家」でのサマーキャンプを続けて行きたいと思えます。

司祭団、教会の関係者、保護者の皆様のご協力により実施できたこと、また子供達の活動を側面から支えてくれたことに感謝し、これからも見守っていただきたいと思います。

教会学校 サポーター 矢野 勉

五島の小さな教会たちと^{さき}脊について

写真・文 柳沢 洋子

今回も五島巡礼の続きです。

五島の中で一番大きな島、福江島は平地も多く、畑、水田もあります。一歩入れば、やはり山道になります。山がちな地形で隣との集落との行き来も難しい不便な土地を選んだ、あるいは追いやられたのには禁教令から逃れるためであつた訳ですが、集落ごとに自分たちの教会と墓地を作つたので、前回にご紹介したような小さな教会が福江島に限らず沢山ありました。

今回の旅で考えさせられたことの内、やはり人口流出があります。

若い人が都会に出て行ってしまう、と言うよりも、一番大事な漁業が、海水温が上がつたことにより、これまで本土に出して売られていたような魚が取れなくなつてきていて、諦めてしまう人が多いことが原因の一

つと聞きました。大手の会社がマグロの養殖を始めていますが、未だ思うように効率が上がらないそうです。

車で走っていても、沢山の廃校もありましたし、タクシーの運転手さん曰く、この学校は開いているけど、生徒の数より、先生の方が多い、バスもあるけどスクールバスみたいなもの、とのことでした。

途中でパトロールカーに出会ったのですが、おまわりさんもすること無いから毎日走っているだけ、と言うのには笑いましたが。

その様な状況下では当然信者数も減り、小さな教会は維持できなくなってきました。

写真の一枚目は、とうとう壊れてしまった立谷教会の跡に置かれた、石造の教会の記念碑です。ただ、上手に作ってあるので、写真だと本当の教会に見えませんか？

【 ① 立谷教会跡 記念碑 】



二枚目は宮原教会です。写真だと普通の民家に見えると思いますが、入口の屋根に十字架が挙げられており、こ

こは国道にも近いので巡回教会になっています。内部の写真撮影は禁止ですから、お見せできないのが残念ですが、きれいに掃除が行き届いているのは申し上げるまでもありません。

【 ② 宮原教会 】



三枚目は半泊教会です。

この教会は二日目にレンタカーで行こうとしていたのですが、一日目の運転手さんが、「半泊教会へ・・・レンタカーで・・・」と小さい声で言いにくそうに何度も繰り返すので、「素人には無理ってこと？」と聞きましたら、繁敷教会への道と同じで、細い山道だから、と遠慮がちに仰せなので、二日目もタクシーをお願いしました。

【 ③ 半泊教会 】



やはり土地の人の言うことは聞くものです。半泊への道は車一台分の細い道が山の中をくねくねとしていました。

ここも長崎大村藩から禁教を逃れた信者たちが開いたところですが、隣の集落とは離れていて、容易に行き来できない、でも自給自足できると言う場所は重要だったに違いありません。

山道が突然海岸の入り江に開けたところは、曇り空でも美しい所で、大正時代にアイルランドからの寄付で建てられた半泊教会が海岸そばにあり、五世帯六人の集落の内、信者さんはお一人になっていますが、やはり巡回でも月に一度のミサがあります。

お祈りを終えて出ようとしたら、玄関前に大きくて立派な（かつ美味しそう！）鶏が二羽闊歩していて、しばらくは姉と手を取り合っただけでふるえました。

【 強くて美味しそうな鶏 】



教会の裏には新しくできたクラフト・ジンの小さい工場があります。

テレビでも取り上げられたことがあるので、ご存じの方もいらっしゃるかと思いますが、某ビール会社の3人が早期退職して、退職金で建てたジン工場、日曜日だったのでお休みでしたが、教会のメンテナンスも手伝ってくださっているようで、移住者として歓迎されているようでした。

【クラフト・ジン工場】



この集落には一軒だけ素泊まり民宿があります。山道の途中に小さい看板があったので、「あ、民宿がある！」と私が言うとその日の運転手さんが経営しているのです。

素泊まりと言っても辺りに店があるわけもなく、どうするのかと聞いたら、電化製品も、調味料も全部そろえてある、野菜果物は運転手さんが家の前に作っているもの食べ放題、釣り道具も置いてあるから夕飯の魚は自分で釣ってね、とのこと。

釣りをしたこと無い人は？と聞けば、この辺の魚はのんびりしているから、エサをつけなくてもすぐに取れるから（！）と言うのですが。一泊三千円で、コロナの時はここに来てリモートワークで長期滞在していた人もいたそうです。

最後に苦しいのですが「窄」の話をしなければなりません。

読み方は「さこ」、意味は狭い、すぼまる、と言う意味ですが、今回の旅で二か所、福島楯原の「窄」と久賀島の「牢屋の窄」に巡礼しました。

【楯原牢屋の窄】



【久賀島の窄】



生きていて、朝になって一度外に出されても、棄教を迫る拷問が待っているだけでした。それでも強い祈りを唱えて信仰を捨てなかつた信者の方々を考えると、ひたすら自分が情けなく、恥ずかしく思い、泣けてくるばかりでした。

久賀の窄は、久賀島と奈留島のキリシタン関連を、福江島から半日で廻る長崎市のツアーで行ったのですが、窄は帰る前の最

後でした。ガイドさんが言うには、窄を最後にしないと、信者でない人たちでも窄を最初に訪れると、その後、皆口を利かなくなってしまうから、とのことでした。

どうぞ、私にも、いかなる時にも信仰宣言できる勇気をお与え下さい。

皆さまにも殉教なさつた信者の方々、棄教せざるを得なかつた方々のためにお祈りください。

狭いところに沢山の信者を長期に渡って押し込めて棄教を迫り、沢山の殉教者を出したところです。どちらも六坪程度の部屋に二百名程を入れたのですから、当然立ちっぱなし、垂れ流し、小さい子供、体力の無いお年寄りから殉教していきました。

